

令和7年度

「運営に関する計画」
最終評価

大阪市立東中本幼稚園

令和8年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・様々な活動に興味を示し、自分の好きな遊びを見つけて夢中になって遊ぶ姿がある。また、人懐っこい幼児が多く、進んで教師や友達に関わろうとし、安心感をもって生活していると伺える。一方で、自分の思いを優先しようとする幼児も多く、また、友達の考えに関心をもちにくく、一緒に遊びを進めることが難しい様子が見られる。同年齢や異年齢とのかかわりを大切にし、また身近な併設小学校の小学生や地域の方々とのふれあいなどを通して、自分の存在はもちろん、他者の存在の大切さに気付き、共に生活する喜びを味わうことができるように取り組んでいきたい。
- ・幼稚園は、幼児が初めて出会う学校という教育の観念を、全教職員で共通理解し、日々の保育活動に取り組んでいく。様々な経験を通して、豊かな心と健康な体の育成につながる保育活動を充実させ、幼児一人一人を大切にしたい援助を心がけていく。
- ・現代社会における、幼児を取り巻く様々な情勢の中、幼稚園と家庭、そして地域と共に連携をとり見守っていく必要が大いにあると考える。それに加えて、幼児自身においても幼児期に身に付けておきたい安全に対する意識を園生活の経験から指導・援助していくことが大切であると考えている。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

◆基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現

- 令和7年度の保護者アンケート「幼稚園は、安全・安心に関する環境や体制づくりに努め、子どもの安全な生活への意識を高めている」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。

◆基本的な方向2 豊かな心の育成

- 令和7年度の保護者アンケート「幼稚園は、子どもが安心して園生活を送ることができるよう、一人一人の個性に応じた保育実践に努めている」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

◆基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上

- 令和7年度の保護者アンケート「子どもはすすんで様々な環境に関わり心を動かしながら、教師や友達と一緒に活動することを楽しんでいる」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。

◆基本的な方向5 健やかな体の育成

- 令和7年度の保護者アンケート「子どもは規則正しい生活習慣を身に付け、心身ともに健康で楽しく幼稚園生活を送ることができる」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

◆基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- 毎週1回、ゆとりの日を設定し実施する。

◆基本的な方向8 生涯学習の支援

- 令和7年度の保護者アンケート「幼稚園は子どもが絵本やお話に親しめるようにしている」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 令和7年度の保護者アンケート「幼稚園は、安全・安心に関する環境や体制づくりに努め、子どもの安全な生活への意識を高めている」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。
- 令和7年度の保護者アンケート「幼稚園は、子どもが安心して園生活を送ることができるよう、一人一人の個性に応じた保育実践に努めている」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- 令和7年度の保護者アンケート「子どもはすすんで様々な環境に関わり心を動かしながら、教師や友達と一緒に活動することを楽しんでいる」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。
- 令和7年度の保護者アンケート「子どもは規則正しい生活習慣を身に付け、心身ともに健康で楽しく幼稚園生活を送ることができる」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- 令和7年度の保護者アンケート「幼稚園は子どもが絵本や物語に親しめるようにしている」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。
- 令和7年度の保護者アンケート「幼稚園は家庭や地域との連携に努めている」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

保護者アンケートでは、すべての項目において「そう思う」と回答する割合が目標の80%を上回り、中期目標及び年度目標を達成した。特に今年度はコロナ禍以降6年ぶりに、未就園児活動や地域の憩の家訪問を再開し、地域の方との関わりを深められたことが大きな成果である。地域や保護者の方にも大変喜んでいただき、子どもの育ちを共に感じることができた。また、小学校や保育所との交流等も継続し、子どもたちが様々な人に親しみの気持ちを持ち、関わりを楽しむ姿が見られた。昨年度以上に子どもたちが豊かな経験をするのができ、幼児期の子どもにとって必要な幼稚園教育を進めることができたと感じる。また、ホームページを活用し、園内外に幼稚園教育を発信できたことも成果である。次年度以降もさらに子どもたちが豊かな生活経験を得られるよう、地域・小学校・保育所・保護者等と連携し、活動内容や指導の在り方を工夫するとともに、全教職員の共通理解を深め、一人一人の子どもを大切に、幼稚園教育の充実に取り組んでいきたい。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>◆基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現</p> <p>○令和7年度の保護者アンケート「幼稚園は、安全・安心に関する環境や体制づくりに努め、子どもの安全な生活への意識を高めている」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。</p> <p>◆基本的な方向2 豊かな心の育成</p> <p>○令和7年度の保護者アンケート「幼稚園は、子どもが安心して園生活を送ることができるよう、一人一人の個性に応じた保育実践に努めている」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○子どもが安全・安心に生活するための指導や援助の工夫をする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1回、安全点検を実施し確認事項の共有や環境の見直しを行う。 ・年間計画に基づき、避難訓練を学期に2回以上、年に6回以上実施する。 ・子どもの実態に応じた安全指導や掲示等を学期に1回実施する。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>○子ども一人一人の実態や行動を把握し、それぞれの育ちにつながる個に応じた支援の方法を工夫する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、園内委員会を実施し、全教職員で個に応じた支援方法について話し合う。 ・学期に1回、個別の指導計画や視覚的な教材を作成し、見直しを行う。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>※保護者アンケート「幼稚園は、安全・安心に関する環境や体制づくりに努め、子どもの安全な生活への意識を高めている」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合は86%で、中期目標及び年度目標を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1回、安全点検表を活用しながら定期的に安全点検を実施した。また、今年度は日々の安全点検表を見直し、毎日日番がチェックリストを見ながら確実に安全点検を実施できるようにした。 ・保育室の戸棚の扉が簡単に開いてしまう状態であったため、扉をマジックテープで固定し、地震が起きた際、物の落下につながる危険性が下がるようにした。また、職員室のコンセントカバーの補修、園庭の人工芝の土の除去、階段床シートの改修等、幼児が安全に生活できるよう、気付いた箇所の環境改善を迅速に行った。 ・避難訓練を年間計画に基づいて、月1回実施した。 <p>火災想定訓練を4・5・10・12・2・3月の計6回、地震想定訓練を6・8・9・1</p>	

月の計4回、不審者想定訓練を7・11月の計2回、と様々な想定で計画的に実施することができた。

火災：小学校と合同で避難訓練をした。今年度はより実際に火災が起きた際の避難を想定し、小学校から幼稚園に内線を用いて火災が起きたことを伝えてもらうようにし、小学校と幼稚園の教職員が緊急時に連携できるようにした。また、避難時の約束「おはしも」をイラストを用いて視覚的に分かりやすく幼児に伝えたことで、約束をよく理解して避難することができた。

地震：保育室で地震が起きた時の身の守り方について、ダンゴムシポーズという言葉を使って知らせるようにした。幼児が身近に感じているダンゴムシであったためイメージしやすく、スムーズにダンゴムシのように体を丸めて頭や体を守ることができた。

9月に地震・引き渡し訓練を実施した。保護者には時間を知らせず、コドモンやメールでの連絡を確認してから迎えに来てもらうようにしたことで、より緊急時に近い想定で実施できた。また、家に帰るところまでが訓練であることを伝えると、幼児も保護者も真剣に取り組む姿が見られた。また1月は、小学校と合同で、地震・津波の引き渡し訓練をした。遊戯室で遊んでいる時に、安定した机の下に隠れることや、上に落ちてきそうなものがないところで頭を守ることを知らせると、自分で判断して素早く身を守る姿が見られた。また、小学校の校庭から3階まで長い階段だったが、緊張感をもち、最後まで自分自身で上って静かに待機することができた。

防犯：1階と2階それぞれに内側から鍵のかかる部屋を新たにつくり、不審者が侵入した際、幼児が避難できるようにした。7月は、2階の一室に全園児が避難した。普段は入らない部屋であるため、初めて入る幼児ばかりだったが、泣いたり話したりすると見つかってしまうという危機感をもちながら、真剣に避難することができた。11月は、戸外遊びをしている時の避難方法を知ることができるように、土足のまま素早く保健室へ避難した。近くの教師の言葉をしっかりと聞き、落ち着いて避難することができた。

- ・園外保育前に、ペープサートやパワーポイントなどの視覚物を活用して、電車の乗り降りや交通安全指導などを実施し、園外での安全な過ごし方について意識が高まるようにした。また、地域の安全パトロールや東成警察の方に安全指導をしていただき、信号の色の意味や渡り方について幼児が知る機会となった。5歳児には、就学前に安全に小学校へ通学できるように、こども110番があることを教えていただいたり、防犯ブザーを実際に鳴らしたりし、知らない人に声をかけられた時に逃げられるようにした。
- ・運動会前に、けがの予防についての保健指導を行い、ペープサートや園舎の写真を使用し、どうすればけがを防ぐことができるかや、けがをした時にどうしたらいいのかを考えられるようにし、幼児が安全に生活できるようにした。

取組内容②【基本的な方向2、豊かな心の育成】

※保護者アンケート「幼稚園は、子どもが安心して園生活を送ることができるよう、一人一人の個性に応じた保育実践に努めている」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合は、86%で、中期目標及び年度目標を達成した。

- ・年度初めに前年度の申し送り事項等を確認すると共に、各クラスの実態把握に努めた。また、日々の保育後に幼児の姿について教職員間で話し合う時間をもつことで、多面的な幼児理解、情報共有に努め、個々の育ちに繋がるようにした。1学期末の第2回園内委員会ではクラスの実態に基づいて2学期に向けて一人一人の幼児に応じた手立てについて話し合い、教職員で共通理解を図った。また、3学期初めの第3回園内委員会では進級・進学に向けて一人一人に寄り添った支援について話し合い、支援体制について教職員の共通理解を図った。
- ・各クラス、個別の指導計画・個別の教育支援計画を立てた。5月に特別支援に関する巡回指導では支援について専門的な指導・助言を受け、個に応じた支援についての認識を深めたことで、保育に生かすことができた。12月には（大阪府立生野支援学校）による地域支援を受け、保育における具体的な支援方法や就学に向けての引継ぎ等について指導・助言を受け、個に寄り

添った支援を図ることができた。

- ・視覚的な配慮として一日の流れや身の回りの始末、製作時の手順など、必要に応じてイラストで掲示したり、タイムタイマーを活用したりすることで幼児が見通しをもって活動できるように努めた。また個々に応じた掲示をすることで安心・安全な生活を送れるように配慮に努めた。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】

- ・日頃から危険があれば教職員間で伝え合い、迅速に改善できるようにする。
- ・幼児の実態に合わせて、その時にあった掲示物を用意する。

取組内容②【基本的な方向2、豊かな心の育成】

- ・次年度も一人一人の実態把握に努め幼児が安心して活動できるよう課題の改善点を模索する。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>◆基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上</p> <p>○令和7年度の保護者アンケート「子どもはすすんで様々な環境に関わり心を動かしながら、教師や友達と一緒に活動することを楽しんでいる」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。</p> <p>◆基本的な方向5 健やかな体の育成</p> <p>○令和7年度の保護者アンケート「子どもは規則正しい生活習慣を身に付け、心身ともに健康で楽しく幼稚園生活を送ることができる」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向3、幼児教育の推進と質の向上】</p> <p>○子どもが心を動かしながら、表現する楽しさを味わえるような教師の援助のあり方や環境構成を探る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育カリキュラムや新幼稚園教育要領を活用しながら保育案を作成する。 ・年に3回以上実践記録をとり子どもが心を動かしながら自分なりに表現しようとする姿を捉え、教師の援助のあり方や環境構成を探る。 ・年に3回以上研修に参加し、学びを共有したり、園内研究保育を年に3回実施したりし、資質向上につなげる。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <p>○子どもが健康で規則正しい生活習慣を身に付けるための指導や援助を工夫する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが健康な体や生活に関心をもつことができるように、年間計画に基づき、毎月の保健指導の内容の充実を図り、教材研究に努める。 ・月1回の「ほけんだより」や学期に1回の保護者会、また、幼稚園ホームページを活用し、子どもの様子や保健活動の内容を保護者に発信する。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【基本的な方向3、幼児教育の推進と質の向上】</p> <p>※保護者アンケート「子どもはすすんで様々な環境に関わり心を動かしながら、教師や友達と一緒に活動することを楽しんでいる」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合は、100%で、中期目標及び年度目標を達成した。</p> <p>・日々の保育において、「就学前教育カリキュラム」「幼稚園教育要領」を熟読した上で目の前の幼児の実態に合わせ、週案と日案を作成した。その中で、幼児の遊びの姿を受け、遊びが継続したり、広がったり深まったりするにはどのような教師の援助が必要かを考え、環境の再構成をすることで、幼児の思考力と探求心の育ちにつながった。1学期に指導要請、2学期に、園内研究支援に取り組み、総合教育センターの教育指導員の指導助言を受け、その後</p>	

の保育に生かすことができた。その際の保育指導案の作成にあたっては「就学前教育カリキュラム」を活用し、幼児の育ちにつながる、教師の教育的意図をもった働きかけを考え、保育をすることができた。泡、水、泥、土粘土、指絵の具など様々な感触を味わいながら幼児自身がじっくり好きな遊びをしたり、試したりできるような環境を整えた。また、異年齢と一緒に遊ぶ機会を多くもったことで、互いに刺激を受け合い、幼児が主体的にかいたり、つくったりする遊びを楽しむ姿が見られた。幼児の興味や関心から、保育内容を工夫したり、幼児がやってみようと思える環境を整えたりしたことで、幼児が進んで体を動かしたり、根気強く繰り返し挑戦しようとしたりし、イメージしたことをのびのびと表現することを楽しむなど、意欲と自立心の育ちにつながった。

- ・ 幼児がかいたり、つくったりする中で自分の思いを表現する楽しさを味わう幼児の記録を、4・5月と6・7月の2回とり、その都度検討会を行った。検討会では、分析シートに基づき記録を分析し、幼児が遊びを楽しむきっかけとなる心の動きにはどのようなことがあったかを考え具体的に話し合った。また、日々保育後に、幼児の姿について話し合うことで、幼児一人一人を多面的に見て幼児理解を深めたり、幼児が主体的に活動し、繰り返しやってみたいと、わくわくするような環境構成を工夫していくことの大切さについて学び合ったりすることができた。
- ・ 他園の研究保育の動画を鑑賞、各自様々な研修会、講演会、オンライン研修に取り組み、研修内容について伝達研修などで学びを共有したり、6月・9月・1月には園内研究保育を行ったりして、資質向上に努めた。

取組内容②【基本的な方向5、健やかな体の育成】

※保護者アンケート「子どもは規則正しい生活習慣を身に付け、心身ともに健康で楽しく幼稚園生活を送ることができる」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合は、100%で、中期目標及び年度目標を達成した。

- ・ 保健指導を年間計画に基づき、毎月行い、指導内容に合わせてイラストやパワーポイントを用いたり、年齢に応じて内容を検討したりして、幼児にわかりやすくなるようにした。自園のホームページやほけんだよりにも保健指導の様子を掲載し、保護者と共通理解を図ることで、家庭でも基本的な生活習慣が定着するようにした。
- ・ 年間計画以外にも子どもの実態に応じて、その都度必要な保健指導を行った。また特に保護者と共通理解を図りたい内容については、臨時のほけんだよりを配布した。6月には歯みがき指導を集団と個別の両面で実施したり、歯科園医を招いて保護者に向けての歯科講演会や幼児に向けて歯みがき指導を行ったりした。また、歯みがきカレンダーを活用し、昼食後の歯みがきの定着を図った。夏休みにも歯みがきカレンダーを配布し、家庭でも歯みがきの見守りや習慣化につながるようにした。
- ・ 昨年に引き続き、5歳児に『ぴかぴかしらべ』を定期的に行い、ハンカチ・ティッシュの所持や爪を短く保つこと、朝の歯みがきの大切さを知らせたり、体を清潔に保つことの意識を高めたりした。2学期からは4歳児にも『ぴかぴかしらべ』を行った。朝の歯みがきが定着してきたという保護者からの声を聞いたり、自ら爪の長さを意識する子どもが見られたりするようになった。
- ・ 3色食品群についての指導後、昼食時に毎日食育クイズを行ったことで食への興味関心が高まり、食べる意欲の向上につながった。
- ・ 11月には、昼食後の丁寧な歯みがきを行えるよう、歯みがきカレンダーを活用した。その際、口呼吸を鼻呼吸にかえる効果や、齲歯の予防にも効果がある「あいうべたいそう」も一緒に行った。その後12月には歯垢染色を行い、口腔の清潔に意欲・関心を高めた。またその結果を保護者にも返却し、2学期末の保護者会でも知らせた。仕上げみがきの大切さを伝える良い機会になり、保護者啓発にもつながった。1月の「早寝・早起きの大切さについて」の保健指導の後には、子どもたちが早寝・早起きを楽しみながら習慣化していくことができるように、くじら列車の話を反映させた「21時までに寝て、9時までに登園する」という

「くじら列車カード」の取組みを実施した。保健指導の内容は、全教職員に共通理解を図り、指導後は日々見回り声掛けをしたり、各クラスに指導内容に応じた掲示物を掲示したりし、指導が継続するようにした。

5 歳児

4月「朝の生活習慣について」	5月「体の名前について」	6月「プライベートパーツについて」	7月「熱中症を予防しよう」
9月「3色食品群について」	10月「排便や体のつくりについて」	11月「6歳臼歯について・歯の役割について」「小学校給食について」	12月「冬の過ごし方・感染症について」
1月「早寝・早起きの大切さについて・睡眠について」	2月「ふわふわことばとちくちくことば」	3月「1年間の振り返り・小学校就学にむけて」	

4 歳児

4月「幼稚園で楽しく過ごすための約束について」「和式トイレの使い方」	5月「歯みがき」「手洗い・うがい」「けがを防ごう」	6月「プライベートパーツについて」	7月「熱中症を予防しよう」
9月「3色食品群について」	10月「けがの予防について」	11月「よい姿勢について」	12月「咳エチケット・感染症について」
1月「早寝・早起きの大切さについて・睡眠について」	2月「ふわふわことばとちくちくことば」	3月「1年間の振り返り」	

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向3、幼児教育の推進と質の向上】

- ・幼児が何に興味をもち、心動かされているかを探り、わくわくした気持ちをもって表現することを楽しめるように環境構成をしていく。

取組内容②【基本的な方向5、健やかな体の育成】

- ・年間計画以外に行った保健指導についても、ホームページやドキュメンタリーで発信し、次年度もより一層保護者啓発を行う。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>◆基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり ○毎週1回、ゆとりの日を設定し実施する。</p> <p>◆基本的な方向8 生涯学習の支援 ○令和7年度の保護者アンケート「幼稚園は子どもが絵本やお話に親しめるようにしている」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。</p> <p>◆基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進 ○令和7年度の保護者アンケート「幼稚園は家庭や地域との連携に努めている」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○ 教員の働き方改革を推進する。</p> <p>-----</p> <p>指標</p> <p>・毎週1回、ゆとりの日を設定し活用する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向8、生涯学習の支援】</p> <p>○イメージや想像力を豊かにするために、子どもが絵本や物語に親しむことができるような活動内容や環境の工夫をする。</p> <p>-----</p> <p>指標</p> <p>・様々な絵本に親しむことができるように、絵本貸出しを週に1回行い、貸出しカードを活用して保護者との連携を図る。</p> <p>・学期に1回、「ふれあい絵本ウィーク」を設け、絵本を活用した保護者と幼児のふれあい活動の内容を工夫する。</p> <p>・月に1回以上、季節や子どもの興味に合わせて絵本の精選をしたり、月刊絵本の活用を工夫したりする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>○教育内容や子どもの様子や教育内容等の情報発信を行い、家庭・地域と連携した教育を推進する。</p> <p>○様々な人との交流活動を通して、親しみをもち関わりを楽しむ子どもを育てる。</p> <p>-----</p> <p>指標</p> <p>・年に3回、保護者会等で保護者に保育の取組内容を伝達したり、園内の写真掲示などで子どもの様子を情報発信したりする。</p> <p>・ホームページを活用し、週2回以上の更新をする。</p> <p>・学期に1回以上、計画的な交流活動（小学校・保育所・地域など）を実施する。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>・週1回ゆとりの日を設け、その日に職員会議や打ち合わせを入れないようにしたり、プール期間は教員の勤務時間の変更を実施、また、教職員で声を掛け合ったりし、早く退勤することを意識できるようにした。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向8、生涯学習の支援】</p>	

※保護者アンケート「幼稚園は子どもが絵本やお話に親しめるようにしている」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合は、100%で、中期目標及び年度目標を達成した。

- ・昨年度に引き続き、絵本の貸し出しを週に1回行った。幼稚園にある絵本だけでなく、中央図書館から貸していただいている絵本も貸し出しできるようにしたことで、様々な絵本に親しむことができた。貸し出しカードには、保護者が絵本を読み聞かせた時の幼児の様子やつぶやきを書いていただき、家庭での様子を知る機会になった。また、担任が月1回コメントを返すようにし、保護者との連携を図った。
- ・毎学期末に、ふれあい絵本ウィークを設け、遊戯室で保護者と幼児が好きな絵本を一緒に選び、読み聞かせをしてもらう機会をつくった。今年度新たな取り組みとして、今の時期にしか味わえない幼児と保護者のふれあいの時間を大切にできるように、読み聞かせの際、保護者の膝の上に幼児をのせてもらうようにした。きょうだいがいる幼児も一人ずつ保護者と絵本を見ることができるよう、読み聞かせをしていない幼児を教師が看護するようしたり、外国にルーツのある保護者にも、子どもに絵本の読み聞かせをしてもらえるように、図書館で外国語の絵本を借りて用意したりしたことで、どの子どもも保護者とのふれあいを楽しみながら、絵本や物語に親しむことができた。
ふれあい絵本ウィーク1日目は全員が参加し、預かり保育がある幼児も迎えに来た際に読んでもらえるようにした。また、ふれあい絵本ウィークの一週間、降園後に遊戯室を開放し、何度も利用できるようにしたことで繰り返し参加する姿もあった。今年度は読んだ絵本について振り返る機会をつくれるように、ふれあい絵本カードをつくり、絵本を見た感想を書けるようにした。
- ・保育室や遊戯室に季節の絵本や教師のおすすめの絵本を表紙が見えるように展示したことで、自分では手に取らない絵本を読んだり、どの絵本にしようか迷っている方の絵本選びの参考になったりし、絵本選びを楽しむ姿が見られた。
- ・9月に園外保育でこども本の森中之島に行き、館内の方に読み聞かせをしてもらい、新しい絵本に出会えたり、興味が広がったりした。また、幼稚園にはないたくさんの絵本に触れる機会ができ、幼児一人一人が興味をもった絵本を見ることができた。
- ・幼児の興味や季節、行事に合わせた絵本を今年度新たに教師が選び、購入した。その絵本を読み聞かせたり、好きな遊びの際に自由に読めるようにしたりしたことで、幼児が絵本を見ようとする気持ちが高まり、子どもたちのイメージや想像力が豊かになってきていると感じた。
- ・年に2回、地域の絵本の会の方が、季節やそれぞれの年齢に合わせた絵本を子どもたちに読み聞かせしてくださったことで、初めて見る絵本に触れる機会になった。

取組内容③【基本的な方向9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

※保護者アンケート「幼稚園は家庭や地域との連携に努めている」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合は、100%で、中期目標及び年度目標を達成した。

- ・4・5・6月の保育参観時や学期末に写真を掲示（計4回）、また、終業式などの保護者会の際にパワーポイントを使用し（計3回）、保護者に幼稚園での子どもの様子を知ってもらったり、教育内容を発信したりした。
- ・ホームページを週2回以上更新し、保護者だけでなく未就園児や地域等多くの方に、幼稚園生活や行事の様子、幼稚園教育を知ってもらえるようにした。また、7月と9月に幼稚園説明会・幼稚園見学を行い、未就園児と保護者の方に就学前教育についてや幼稚園教育が小学校以降の教育にどのようにつながっているかなどについて、パワーポイントを用いて説明したり、未就園児園庭開放の機会を通して、幼稚園の雰囲気や保育を実際に見ていただいたりしたことで、入園前に教育内容を知っていただくことができた。

- ・下記の様々な人との交流を通して、親しみの気持ちをもったり、関わりを楽しんだりした。

<小学校> 4歳児と5歳児が1年生と泥んこ遊び交流

- ・4回予定していたが雨天のため中止

5歳児が5年生と交流（2回）

- ・ 8月末に5歳児が、東中本小学校の5年生がプールで泳いでいる姿を見学したり、9月に東中本小学校の大きなプールに入らせていただき、5年生と一緒にプールで遊んだりした。また、11月に給食交流を実施し、5歳児が5年生と一緒に給食の準備をしたり、小学校の教室で一緒に給食を食べさせていただいたりしたことで、関わりを楽しんだり、児童に憧れの気持ちをもち、就学への期待が高まったりした。交流後には、嬉しかった気持ちや感謝の気持ちを絵にかき、手紙をつくって5年生に届けに行ったことで、さらに親しみをもつ姿が見られた。

5歳児と小学校との交流・全園児と小学校との交流

- ・ 9月に5歳児が小学校の展覧会を観に行かせていただいたり、10月に5歳児の音楽会を東中本小学校の講堂で開催させてもらい、児童に子どもたちの歌声を聴いてもらったりした。
- ・ 全園児が5年生の演技発表を見せてもらったり、幼稚園の展覧会を様々な学年の児童が見に来てくれたりしたことで、児童への憧れの気持ちや進学への期待がさらに高まった。

<保育所> 5歳児が東中本保育所の5歳児と交流（3回）

- ・ 5月に園庭で好きな遊び、6月にプール遊び、そして今年度は昨年度よりも2回多く10月と2月にも交流を実施し、園庭で体を動かす遊びを一緒に楽しんだり、同じ地域に住む同い年の友達や同じ進学先になる友達を知ったりする機会となった。交流を重ねることで、より親しみの気持ちが大きくなっていった。

<地 域> 憩いの家訪問（5歳児2回、4歳児1回）

- ・ コロナ禍以降、未実施だった地域の憩いの家訪問を再開し、6月・10月・1月に、幼児が地域に住むお年寄りの方と交流をした。歌を聴いていただいたり、肩たたきをしてふれあったり、10月には子どもたちが手作りしたプレゼントを持参したりしたことで、お年寄りの方にとっても喜んでいただけた。子どもたちが、地域の方の存在やいつも見守っていただいているということを知る機会にもなった。

地域の方と遊ぼう

- ・ 1月、地域の方が来園してくださり、子どもたちのために楽しい遊びのコーナーをたくさん用意してくださり、お店番をしてくださったり、幼児と一緒に関わりながら遊んでくださったりし、地域の方と交流を深めることができた。

全園児と未就園児（12回）

- ・ コロナ禍以降未実施だった未就園児園庭開放「こあらサークル」を月に2回程度実施し、未就園児と保護者の方に園庭で園児と一緒に季節に応じた好きな遊びや、体操・なかよし遊びなどを楽しんでもらった。また、7月にはPTAこどもなつまつりを開催し、園児がお店番をしているいろいろな遊びで遊んでもらったり、運動会では、未就園児が参加できるプログラムを設け、5歳児が待っているゴールに向かってかけっこを楽しんでもらったりしたことで、園児が小さい友達に親しみをもち、思いやりの気持ちをもって関わる姿が見られた。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・ 早く退勤することが難しい状況が続いているが、次年度も業務の軽減、体制づくりをその都度見直すとともに、声をかけ合い、一人一人が勤務時間を意識できるようにしていく。

取組内容②【基本的な方向8、生涯学習の支援】

- ・ より多くの人にふれあい絵本ウィークに参加してもらえるように早めに周知したり、魅力的な絵本の展示をしたりする。

取組内容③【基本的な方向9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

- ・次年度も様々な交流を子どもの実態等に応じて考え、見通しをもって計画的に実施していく。